



町田 彩音 (まちだ あやね) 松枝小 3年生

作品名: 目の見えない犬への思い

図 書: 目の見えない犬ダン

わたしは「目の見えない犬ダン」という本を読みました。この本はおばあちゃんからのプレゼントでとても心にのこったのでえらびました。この本は、川にすてられていた目の見えない子犬を、だん地の子どもたちやだん地をまとめているおじさんがひろいます。だん地でかえるよう大人の人におねがいして、みんなで、「ダン」という名前をきめました。

ダンがどうしたら気持ちよくくらせるのかを考え、みんなで犬小屋をたてたりお世話をしていきます。このことを紙しばいではっぴょうして全国にダンのことを知ってもらった、本当にあったお話です。わたしがこの本を読んで一ばん心にのこったところは、家でかえない子どもたちがだん地でお世話出来るようにだん地の人たちに言った言葉です。

「この犬を見てください。目が見えないのでくるくるまわる動きしかできません。」

「目の見えない子犬を見ごろしにしてもいいのですか。」

「もうどう犬は人をたすけるのに目の見えない子犬をすてるのですか。」

わたしはこの部分を読んで、だん地の子どもたちはすごいなと思いました。もしわたしが同じ立場だったら、かわいそうだなとか、だれかかってあげればいいのと思うだけで、どうしたらダンをかってあげられるかを考えたり、大人におねがいたくてもこわくて出来ないと思うからです。この本を読んで、こまっている人や動物を思いやりたり出来るだけたすけたいです。ゆう気をもって行動していきたいと思います。